

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	伊丹市立 伊丹特別支援学校 職・氏名 教諭 土井 正美	研究チーム名 (阪神5校連携研究会)
-----------------	--------------------------------	-------------------------

研究テーマ分類番号 (9)

※県教育委員会のホームページに掲載します。

(1) 研究テーマ
肢体不自由養護（特別支援）学校における教育の専門性を高める
(2) 研究経過及び具体的な取組
<p>年度初めに、阪神5校（尼崎市立尼崎養護学校、伊丹市立伊丹特別支援学校、川西市立川西養護学校、宝塚市立養護学校、西宮市立西宮養護学校）と近隣の県立特別支援学校に呼びかけ、参加者を募った。第1回は伊丹特別支援学校長による基本的な内容に関する講義を行い、第2回からは、毎回2校が事例を持ち寄り、その事例をもとに、児童生徒の実態把握や課題設定の仕方、教材やその提示の仕方、声かけの仕方や子どもからの応答の見方などについて検討を行っている。</p> <p>5月13日（金） 第1回 講義「肢体不自由概論～これからの肢体不自由教育～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師 伊丹市立伊丹特別支援学校長 ・内容 特別支援学校の教員に求められる専門性について、発達の視点、授業の組み立て、摂食場面、手指の操作の指導、読みの指導、数の基礎概念など、具体的な事柄を取り上げての講義がなされた。 <p>6月17日（金） 第2回 事例検討会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの事例をもとに、研究協議を行った。 ・小学部3年生の男児の事例 片手で手すりを持って移動できるが、視覚障がいがあり人との関わりの難しさもある児童について、どのように人とのやり取りを深めていくかを検討した。 ・小学部6年生の男児の事例 四肢マヒ、気管切開、経管栄養で、声かけに対して主に瞬きや舌の動きで意思表示をしていると思われる児童のコミュニケーション手段確立に向け、指導について検討した。 <p>9月30日（金） 第3回 事例検討会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの事例をもとに、研究協議を行った。 ・小学部5年生の女児の事例 「長い・短い」、「大きい・小さい」といった概念を形成する指導について、取り上げる課題や教材の工夫、提示の仕方などを検討した。 ・高等部3年生の女子生徒の事例 指導者による生徒の気持ちの読み取りが難しい生徒について、その表出をどう受け止めるか、また覚醒状態が低い時の関わり方などについて検討した。

